

(様式1)

教育研究業績書

2022年5月1日

氏名 大工原 慈仁

研究分野		学位	
看護管理 看護教育		看護学(修士) : 目白大学大学院 商学(学士) : 日本大学	
研究内容のキーワード			
男性看護師 自己効力感 キャリア形成 レジリエンス 困難と対処			
教育上の能力に関する事項			
事項	年月日	概要	
1. 教育方法の実践 1) 急性期にある成人の特徴理解促進のための取り組み 2) 術後の離床方法を学習するための演習を構築 3) コロナ禍におけるZOOMを利用した遠隔実習の運営、ミニ講義の担当	2015年～現在	1) 成人看護学概論、成人看護支援論Ⅰ・Ⅱの授業・演習や、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱのいずれにおいても、これまでに教えられた内容を振り返りながら理解できるよう資料や教科書を元に、例を示しながら指導を行っている。 2) 成人看護支援論Ⅱの技術演習においてシミュレーション教育を取り入れた演習を行った。 3) コロナ禍において成人看護学実習が遠隔で行われた際、ZOOMの運営において、操作・設定の面で中心的な役割を担った。ミニ講義「輸液管理の実際」「不整脈の判別」を担当した。	
2. 作成した教科書、教材 1) 平成29年成人看護支援論Ⅱ看護過程事例、成人支援論Ⅱ看護過程教員用アセスメントガイド(平成28年29年30年)、成人看護学実習実習記録記載要領(平成27年、28年、29年)	2015年～現在	担当授業のレジュメ、パワーポイント、成人看護支援論Ⅱの看護過程に用いる事例の作成、看護過程のアセスメントガイドの作成、成人看護学実習記録用紙の作成・修正を行った。 技術演習の際は学生用の資料の他、事例を作成しシミュレーション用のアウトラインシート等を作成した。	
3. 教育上の能力に関する大学等の評価			
4. 実務の経験を有する者についての特記事項			
5. その他			
職務上の実績に関する事項			
事項	年月日	概要	
1. 資格、免許等 看護師免許取得(第1348991号)	2006年4月1日		
2. 所属学会 日本看護管理学会 日本看護学教育学会 日本健康医学会 日本看護科学学会	2013年4月～ 2016年4月～ 2020年12月～ 2021年5月～		
3. 実務の経験を有する者についての特記事項 1) NH0東京病院実習指導者、副看護師長、実習指導者委員としての調整や指導の経験 2) NH0東京病院副看護師長として卒後教育に携わった経験	2008年～2015年3月31日 2013年3月1日～2015年3月31日	1) NH0東京病院実習指導者として学生指導を行った。また副看護師長や実習指導者委員として大学との調整や実習受け入れ態勢の検討、調整を行った。 2) NH0東京病院副看護師長として看護管理業務や新人～5年目看護師の卒後教育に携わった。	
4. その他			

1) 3学会合同呼吸療法認定士の取得、2013年からNH0東京病院呼吸ケアチームにて活動	2009年3月～2013年3月	
2) AHA BLSプロバイダーコース修了	2010年8月1日	
3) AHA ACLSプロバイダーコース修了	2011年8月1日	

(様式2)

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 1. 男性看護師の自己効力感に影響を及ぼす要因とキャリア形成について	共著	2013年 3月	目白大学大学院 看護学研究科 修士論文	大工原慈仁 土井徹 病院に勤務する男性看護師の自己効力感に影響を及ぼす要因とキャリア形成に与える影響を明らかにする事を目的に研究を行った、病院に勤務する男性看護師118名と比較群として女性看護師118名に質問紙を用いて調査し、男性看護師88名と女性看護師95名から回答を得た。将来の方向性について構想を持つことが自己効力感の向上につながることを明らかにした。将来の方向性を認定看護師、保健師としている男性看護師は自己効力感が高かった。中でも認定看護師を将来の方向性としている男性群にみられた特有の傾向として、先輩からの影響を受けており、資格の取得をやりがいとしている傾向があった。「患者のケアへの戸惑い」がある群は自己効力感が低いのも男性特有の傾向であった。
(学会発表、講演など) 1. 男性看護師の自己効力感に影響を及ぼす要因とキャリア形成について	共著	2015年8月	第19回 日本看護管理学会学術集会	同上
2. 看護学生の領域別臨地実習における困難と対処のプロセス	共著	2020年9月	日本看護学教育学会第30回学術集会	大工原慈仁 本谷久美子 茂手木明美 齋藤美奈子 学生は、臨地実習においてどのような困難な状況に遭遇し、それをどのように受け止め、考え、対処しているのか、実習における困難と対処のプロセスを明らかにする目的で行った。看護系大学4年生で実習を終了した学生10名を対象に半構造的面接法を用いて調査を行い分析を行った。その結果、学生は実習において、さまざまな困難を受け止め、それらを思考・判断し、対処するといった一連のプロセスを繰り返す中で、学びと学びが連動し、学修が積み重ねられ、実習で学ぶ意義を実感していく様子の示唆が得られた。
(その他) 内視鏡の使用履歴管理の導入—チェックシートによる履歴管理を実施して—	共著	2008年 10月	日本消化器内視鏡技師学会プログラム・講演予報集 61巻 p26-27	柏崎隆司 大工原慈仁 沼沢百代 福田准子 桑田香織 内視鏡の検査件数が増加傾向にある中で、内視鏡の品質管理が推奨されているが、ICUのスタッフが日替わりで検査介助・洗浄などの業務を行っており、内視鏡を洗浄する過程には様々なスタッフが関わっていることから、内視鏡洗浄の品質管理に不安を残す状況があった。そこで履歴管理シートの導入を行いその効果を測った。導入の結果、品質管理上の改善点が明らかになった。